

2月号



土浦一高(定時制)だよ!

社会人講話(明賀副校長)&カンボジア
支援事業 & Acanthus No.131

土浦市真鍋4丁目4-2
Tel. 029-822-0137



社会人講話：明賀副校長



今年度の最後の社会人講話は、明賀靖子副校長先生でした。「今の暮らしを考えたい～豊かな日本とアジアの今～」と題した講話の中で、先生が実際にフィリピンのスラム街で見聞したお話を中心に、環境問題や貧困・格差問題など、生徒のみんなに考えてもらいたい内容がぎっしり詰まっていたいました。誰もが幸せな未来を築いていけたらいいですね。

カンボジア支援：生徒会



本校の谷口先生のご紹介で、カンボジアの貧しい村に衣類等を送る活動を始めて3年目となります。今年度も、生徒会が中心となり、生徒や教員のみなさんからたくさんの寄付が集まり、カンボジアへ笑顔を届ける予定です。2月20日まで受け付けています。

Acanthus No. 131: ついに土浦一高定時制が登場!

毎月、進修同窓会(土一同窓会)の方々が発行してくださっている月刊Acanthusの今月号に、土浦一高定時制の記事が登場してきました。定時制だよりで紹介しておきます。



定時制第1回生の茶話会(昭和24年12月)
最前列中央に4名の教諭が並ぶ。左から、林卯一郎、長南俊雄、土井麟助、本間七郎。
(『進修百年』より)

「清水繁次郎先生と本間七郎先生が定時制専任で、他は全日制から熱心な先生方が兼任されました。残念なことにはまだ電灯設備が設置されておらず、夏の陽の高いうちでも五時から七時頃までの授業で、正課の九時十分までは勉強したくても暗くて出来ませんでした。九月末「28日」にやっと電気がついて授業が出来るようになりましたが、電力事情が悪くしばしば停電に見舞われました。そうなると思板の字が見えませんでした。暗い教室にろうそくを灯して先生のお話だけを伺いました。」(『進修百年』と当時の学びを振り返っています)

定時制夜間部

本校定時制は、新制高等学校の発足と同じ1948年4月1日に、「茨城県立土浦第一高等学校に夜間制高校を併置すること」いう形で開設されました。5月1日、第1学年普通科100名を募集し、志願者78名中68名(うち7名は女子)が合格、5月10日に入学式が挙行され、64名が入学し、初の女子生徒が誕生しました。